

職場などの集団のウェルビーイングと成果創出を「Self-as-We」で両立します



背景

経済合理性だけによらない価値としてウェルビーイングが注目されています。職場や学校など社会集団では、個人のウェルビーイングだけでなく、個人の自律と集団の調和のバランスがとれた「社会としてのウェルビーイング (Social Well-being)」も重要と考えます。

成果の概要

東アジアの思想伝統を踏まえた自己観「Self-as-We」をキー概念に、個人と個人、個人と集団のかかわりを「支援する」「測る」技術・方法論を確立し、個々人のウェルビーイングと集団での成果創出の両立に貢献します。

技術のポイント 1

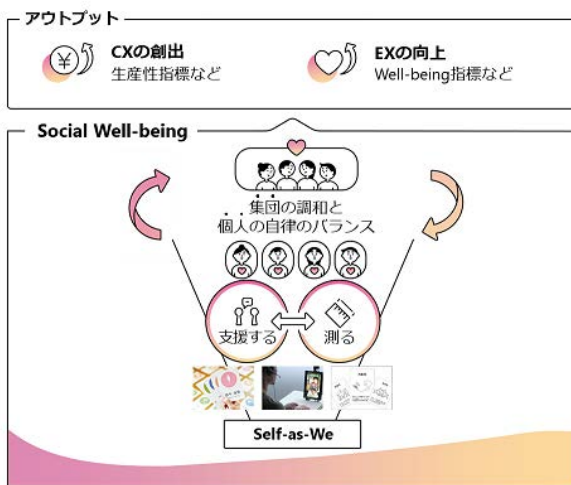
ウェルビーイングの価値観に基づく対話や合意形成のツール・プロセスにより、多様な背景をもつ人が関わりあう集団の共創を支援

技術のポイント 2

触覚伝送やブロックチェーンなどICT技術の活用により、距離や既存の枠組みを超えた集団による共創を支援

技術のポイント 3

構成員のかかわり方の価値観と集団内の関係性の質から、集団の状態を計測



この研究がもたらす未来

職場、学校、地域コミュニティなどの生活の場を、多様な人々が対話を通じて目標や新たなあり方を共創しウェルビーイングが持続する場へとアップデートします。

関連展示

B-E01

出展企業

日本電信電話株式会社

問い合わせ先

rdforum-exhibition@ml.ntt.com